

輸出事業計画

※申請者名：大宜味村シークワサー産地振興協議会

品目：シークワサー

1. 輸出における現状と課題

■現状

沖縄県のシークワサーの令和3年度の生産量は3,879トンであり、大宜味村の生産量は1,949トンであり、沖縄県内の生産量の50%を占めている。シークワサーは以前から大宜味村の特産品として認知されていたが、名実ともに村の基幹産業とすべく村民が一段となって取り組む事を決意。平成17年の「シークワサーの里」を宣言を皮切りとし、大宜味村シークワサー産地振興協議会を中心に大宜味村の地域活性化を図っている。

海外においては、以前に日本のTVで放映されていた番組が現地で再放送されたことから、シークワサーが認知症の予防に良いとの情報が知られることとなり、令和2年～3年にかけてブームとなり、販売量が一気に増えた。

■課題

【生産】

産地である大宜味村では、生産者の高齢化が進んでおり、持続的な生産体制の維持が必要となっている。

【販売】

令和4年ころから、コロナの収束が徐々に進み、外食産業が復活、スーパーの特需が終わったことと、輸出入業者間の過当競争が始まったことから、販売価格がみだれ、販売数がなだらかに減少していった。令和5年の時点でも一定のリピート層は継続しているが、一過性のブームに終わらない、安定消費を実現する為に、継続したプロモーションと販売強化策が必要となっている。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】

・持続可能な生産体制を構築するために、樹木の低樹高木化、収穫技術の革新等（省力化機械の導入等）、集中的な指導を行う。栽培講習会や接ぎ木講習会等を開催し、新規就農者を確保するため若者も参加できるような効率的な栽培技術の浸透を図り、海外での販売に必要な安定的な供給体制を構築する。

・専門技術者を派遣し、立ち枯れ病に対する対策について、研究機関と連携して生産者との意見交換の場を増やし、解決方法を模索していく。

【販売】

・大宜味村の地域ブランドの浸透を図る為に、香港の消費者向けに大宜味村の認知度を高めるプロモーションを検討する。

・シークワサーの効能についての認知度を高める為に、海外のKOL等を活用したSNSプロモーションを展開していく。

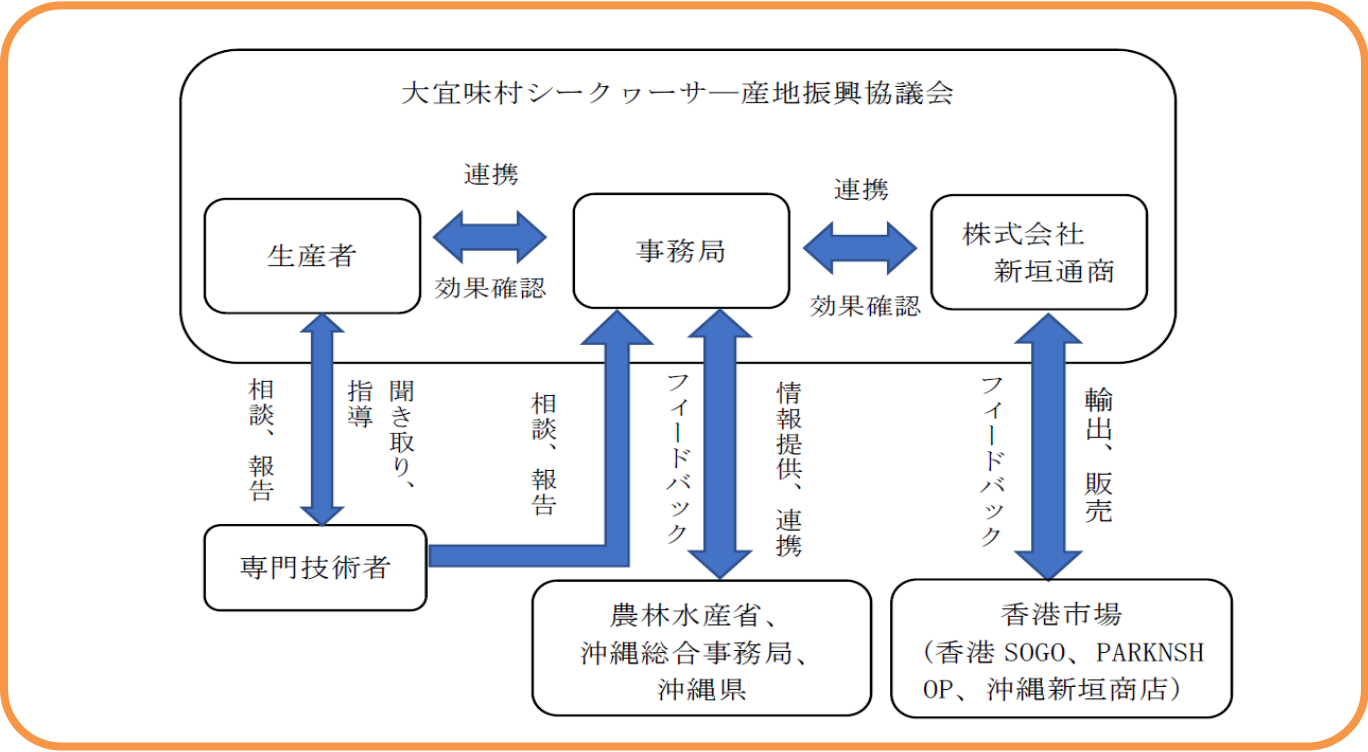
また、シークワサーの古里としての「大宜味村産シークワサー」のブランド構築の為に動画を作成し、SNSで積極的に展開し、他商品との差別化を図る。

輸出事業計画

※申請者名：大宜味村シークワサー産地振興協議会

品目：シークワサー

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

		現状 (令和 5 年度)	目標年 (令和 8 年度)	備考
大宜味村	輸出額(千円)	11,550	21,344	
	輸出量 (kg)	10,395	19,209	
	輸出先国	香港	香港	
	取扱量 (kg)	20,790	38,418	